

# ハーモニ

第28号 2002年6月10日発行  
日本養護教諭教育学会

日本養護教諭教育学会

事務局：〒310-8512  
水戸市文京2-1-1  
茨城大学教育学部  
大谷研究室内  
TEL029-228-8298  
(Fax 兼用)  
振替口座:00880-8-86414

## 目 次

第10回学術集会のご案内（第2報）	2
第10回学術集会へのお誘い	2
会員の声「医療的ケアについて」	3
会員の声「三重県養護教諭教育研究会の歩み」	4
「健康相談活動」教育ワークショップの報告	5
学会共同研究班からの活動報告	
「健康教育に必要な養護教諭の能力を考える」	5
学会誌第6巻の投稿原稿募集	6
研究助成金申請者の募集	6
理事会等の報告	7
新入会員紹介	8
お知らせ、編集後記	8

# 第10回学術集会 (鈴鹿集会)のご案内

## — 第2報 —

1. 期日 2002年10月5日(土)13時~6日(日)16時
2. 会場 鈴鹿国際大学短期大学部  
(三重県鈴鹿市)
3. メインテーマ 「職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する」
4. 内容  
- 1日目 -
  - 1) 開会
  - 2) 学会共同研究「健康教育に必要な養護教諭の能力に関する研究」  
小林央美代表(青森県総合社会教育センター)
  - 3) 英訳ワーキング報告  
鎌田尚子代表(女子栄養大学)(仮)
  - 4) 特別講演「いつも児童・生徒を中心に  
- 三重の教育改革 -」  
講師 田川敏夫氏(三重県総合文化センター副総長、元三重県教育委員会教育長)…移動(懇親会会場へ)…  
懇親会: ホテルグリーンパーク鈴鹿(宿泊紹介ホテル)
- 2日目 -  
<午前>
  - 1) 一般口演
  - 2) シンポジウム「職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する」  
座長: 三木とみ子氏(女子栄養大学)
  - ① 諸外国のスクールナースの現状
  - ② 日本の養護教諭の現状と固有性
  - ③ 他職種から養護教諭を視る
  - ④ 養成側から一職制と今後の展望<午後>
  - 3) 総会
  - 4) ワークショップ「教育現場における医療

的ケアと養護教諭」

コーディネーター: 天野敦子氏

(愛知教育大学)

- 5) 閉会
  5. 研究発表及び参加
    - 1) 学会員の他、当日会員の参加も歓迎します。
    - 2) 発表者及び共同研究者は本学会の会員に限ります。
    - 3) 演題申込締切 2002年7月12日(金)必着。  
発表希望者は同封の申込票でお送り下さい。FAXも可。
    - 4) 抄録原稿締切 2002年8月9日(金)必着。  
演題受理後抄録原稿作成要領をお送りします。
    - 5) 送付先 〒513-8250 鈴鹿市庄野町1250  
鈴鹿国際大学短期大学部  
第10回学術集会事務局 小林壽子  
TEL 0593-78-1020(代表)  
FAX 0593-79-4693
    - 6) 参加費 ハーモニー第28号に同封の振込用紙をご利用下さい。
    - 7) 交通・宿泊 近鉄名古屋駅徒歩40分→白子駅下車徒歩50分  
約30分 →学会用バス
- ※宿泊は白子駅から徒歩10分弱の「ホテルグリーンパーク鈴鹿」があります(1泊朝食付税・サダシングル、ツイン共9,000円)。各自下記まで「日本養護教諭教育学会」とお申し込み下さい。  
日本旅行津支店 担当: 伊藤克哉・荻田勝也  
TEL 059-226-5571  
FAX 059-228-7731(代)

## 第10回学術集会へのお誘い

実行委員長 小林 壽子

(鈴鹿国際大学短期大学部)

第10回という節目を迎えた学術集会を鈴鹿市で開催出来ますことの意義深さを感じ、光栄に存

じます。学校5日制の完全実施にともない、教育現場において、養護教諭の専門性を求められる機会は益々多くなる時、真の力量を追究することがこの学術集会でできることを願っております。

地方の私立短大で名古屋から1時間余りの会場でありますので、ご不便をおかけする事と存じますが本学及び現職養護教諭、行政の理解も得、皆様を歓迎申し上げます。

さて、「第2報」に掲げました内容に触れますと、学会共同研究は研究担当者の真摯な研究成果が発表されることとなります。「養護教諭」の英訳ワーキンググループの報告は日本の養護教諭を海外へ紹介する際の日本独特の職務内容に関わる研究班の、今回は報告となります。特別講演は教育歴及び全国に先がけ新たな教育体系を樹立された田川敏夫氏の変わらぬ教育愛と希望を与えて下さることと存じます。この後、懇親会会場へバスにて移動致します。

2日目は一般口演のご発表から開始となります。養護教諭の力量形成に役立つような質の高い多数の発表をお待ちしております。シンポジウムはメインテーマの「職制60年を経た今、日本の養護教諭の固有性を追究する」を掲げ、外国にはない日本の養護教諭の教育職となった昭和16年の養護訓導から現在求められている力量に言及し、今後の展望も追究できるよう現在シンポジストの決定に向けて進行中であります。

ワークショップでは、現在急浮上している「医療的ケア」を取り上げました。ワークショップの特質を発揮できるよう検討を重ねています。ご期待ください。

又、この機会に南北に互る三重を旅することができれば更に楽しい学術集会となるのでは…など夢を膨らませております。実行委員（約20名）一同心より皆様のご参加をお待ち致しております。

## 会 員 の 声

### 養護教諭は「医療的ケア（日常的・応急的手当）」に教育職員としてどのようにかわるのか

千葉大学 岡 田 加奈子

「医療的ケア」のうち、教員が実施しても比較的危険性の少ないと考えられるものは「日常的・応急的手当」と呼ばれています。その内容は、それぞれ条件付きの吸引・経管栄養・自己導尿の補助等です。そして、医療等の進歩によりこれら「医療的ケア」の必要な子ども達が、養護学校において増えてきています。また就学基準の変更に伴い、養護学校だけでなく通常の学級でも教育を受けることが可能になり、それに伴い解決すべき様々な問題が生じています。

医療的ケアに対しては各自自治体が様々な方法を模索し、対応している現在、看護師との連携や役割分担のむずかしさ、養護教諭以外の役割を要求される等の教育職員としての養護教諭の専門性を大きく侵害される状況など、学校現場からは様々な声が聞こえてきます。

また、養護教諭の採用において、一般の選考とは別に、医療的ケアのために看護師免許と実務経験、及び養護教諭免許を所有している者を対象とした養護教諭特別選考を行なう県・市が出てきました。

実際の行為のみに目を奪われるのではなく、たとえ特別な配慮や支援を必要としながらも、その子ども達の学ぶ権利を保障し、発育発達を支援するために、養護教諭の“教育職員としての役割”を、「暖かい目と心」を持ちながら、探っていく必要があると思います。養護教諭の教育職員としての専門性が問われる大きな問題でありましょう。

養護教諭がこの問題に対する共通認識をはかり、関係法規や人員配置等も含めた環境整備をすすめていくためにも、日本養護教諭教育学会でも、様々な視点から議論するの必要を感じています。

## 三重県養護教諭教育研究会の歩み

岡本 陽子

(三重県立神戸高等学校)

本研究会は、平成10年度に文部省体育局学校健康教育課教科調査官併健康教育企画室メンタルヘルス教育専門官三木とみ子先生を研究大会記念講演講師にお招きし、設立いたしました。

以来、養護教諭及び学校保健関係者の力量形成のための研修、あるいは養護学への確立・健康教育学の追究を図るために三重県教育委員会・三重県医師会・三重県歯科医師会・三重県薬剤師会の後援のもとに研究大会(1回)や研修会(2回)の開催や会報発行の事業を毎年実施しています。昨年度の活動の一端をご紹介します。

### 研究大会

#### 1 研究発表

#### 2 講演「新たなる感染症をみる

－エイズ・狂牛病・口蹄疫等

講師 鈴鹿国際大学短期大学部教授

桜井 悠郎 氏

#### 3 講演「21世紀の学校歯科保健」

講師 愛知学院大学歯学部教授

中垣 晴男 氏

### 第1回研修会

#### 1 研究発表

#### 2 講演「学校環境衛生の動向

－飲料水・照明器具等の環境管理

講師 三重県学校薬剤師会副会長

吉田 眞澄氏

### 第2回研修会

#### 1 研究発表

#### 2 講演「養護学確立のために」

講師 愛知教育大学教授

天野 敦子氏

#### 3 実験研究「保健学習の進め方と指導教材の作成指導」 少年写真新聞社

### 研究活動

#### 1 東海学校保健学会他への参加と発表

・AIDSに対する若者の意識と知識の調査に関する研究

・心の健康「養護教諭の子どもたちへの関わり」について

・児童生徒の生活状況調査から「生活習慣病」を考える。

・養護教諭の職務についての調査研究

・高校生のライフスタイルとストレス

・気づき・見つけ・サポートする相談活動

#### 2 日本養護教諭教育学会への参加と発表

・養護教諭の職務に関する調査研究

本研究会は、実践研究や検証研究を深め、「論文を作成する養護教諭や学校保健関係者の研究会」を主なねらいに謳っています。

「研究」することによって、仮説からたどり着いた「研究結果の喜び」、発表による「緊張感と満足感」、発表による問題の指摘や反論を真摯に受け止め、研究をさらに推し進める「意欲」を会員が味わうことによって、会員ひとり一人、ひいては研究会の質的向上が図られると考えます。

また、「研究」をする姿勢を身につけることによって、教育現場における、健康問題を確かな目で分析・判断をし、問題を学校内で積極的に提案し、その結果、理解を得た教職員の連携によって解決が図られるといった力量が培われるものと考えます。

これらのささやかな研究会ですが、今後は、さらに県内外を問わず、他の研究会と交流を図り、ますます充実した研究会にしていきたいと考えます。

## 「健康相談活動」 教育ワークショップの報告

— なの花の会 —

(学会共同研究班 OB会)

3月9日(土)10時から神奈川県民サポートセンターで標記ワークショップを行いました。参加者は主催者側を含め18名(現職8・養成9・他1)、主な内容は以下のとおりです。

- ① 共同研究の成果報告(学会誌1~6報)吉田
- ② 出席者の参加動機と自己紹介
- ③ 意見交換:現職者から見た「養護教諭に必要な力量と養成教育への期待」
- ④ 実践報告:現職教育につなぐ養成教育。短大(大原)と大学(大谷)授業の実際と質疑
- ⑤ 協議:健康相談活動の理論及び方法の授業のあり方(参加者の意見をKJ法で整理・大谷)

### ＜現職者が考える養護教諭の力量＞

- ・子どもを観る力、虐待、ADHD・・・学んでいかないと昔の財産では対応できない。
- ・養護教諭の対応は身体症状から入る、身体に触れるなど独自の視点があるはず。対応分析、発達と疾病障害等の視点も重要。
- ・組織を動かす力、全体把握の力。どういうケース会議にするか、ケースによって招く専門家が異なるが、それが理解できる力が必要。

### ＜授業の実際＞

- ・カウンセリングをしたいと思っている学生に健康相談活動をどう教えていくかが課題。
- ・養護実習は重要な機会。実習校との連絡と実習の事前・事後指導に力を入れたい。
- ・事例検討会は理論と実際を結ぶ場面。学生教育向けの事例検討の開発が必要。

### ＜ワークショップの意義と次回について＞

養成教育は学校と遊離しては成立せず、理論は交流の中から生まれると考えます。ワークショップは今後も継続したほうがよいという結論でしたが、開催時期や形態は未定です。先生方のご意見をお待ちしております。(文責 森田光子)

## 学会共同研究班からの活動報告

### 健康教育に必要な 養護教諭の能力を考える

小林 央 美

(青森県総合社会教育センター)

2001年12月15~16日、東京代々木のオリンピックセンターにて第4回会合。2002年1月26~27日、メルパルク東京にて第5回会合。2002年3月23~24日、メルパルク東京にて第6回会合と前回のご報告の後、3回の会合を実施しました。

実践者に対する非構造的直接インタビューを実施し、そこから健康教育に必要な能力を引き出すことを行いました。インタビュー内容だけでは引き出し切れていないと思われる内容については、再度日を改めて実践者に聞き返すなどして「インタビュー内容から引き出される能力と実践者が自覚する(または後に気づいた)健康教育に必要な能力」を丁寧に引き出すことができるように努力しました。なぜなら、その後の作業として、記録された内容を「健康教育に必要な能力」という観点で選択と解釈をし、圧縮・整理することでより一般化していこうと考えておりましたので、できるだけ実践(事象)に忠実であることが必要であると考えたからです。この作業は本当に大変でした。

この一連の試みの中で「実践に対する養護教諭の視点」というのがその実践の方向性を決める重要な部分であるのではないかという意見が出ています。しかし、事象(実践)を概念化し、健康教育に必要な能力を整理していくに当たり、「実践の事象に見られる具体的な視点」と概念化するときの「抽象度のレベル」の狭間で苦慮しているところです。

このような状況にありますが、研究員一同力を出し合って、学術集会に向けて頑張りたいと思っております。

## 「学会誌の原稿」 募集中

「日本養護教諭教育学会誌」第6巻第1号の原稿を募集しています。

養護教諭の実践、養成教育や現職教育に関する調査などを研究論文にまとめて投稿してみませんか？会員が相互に研究成果を交換し合い、それを実践で検証し、さらなる研究としてまとめ交換し合うといった積み重ねによって、より質の高い実践を追求していけたらと思っています。積極的な投稿をお待ちしています。

1. 投稿資格：本学会の会員に限ります。
2. 原稿の種類：論壇、総説、原著、研究報告、実践報告、資料、その他です。  
投稿論文は、他の出版物に既に発表または投稿されていないものに限ります。
3. 募集期間：年間を通して受け付けていますが、第6巻第1号の原稿の最終締め切りは、**2002年9月30日**です。
4. 投稿方法：B5判横書きで3部（内2部は査読用なので著者名、所属を記載していないもの）作成し、学会事務局に送付して下さい。原稿枚数や執筆要項等の詳しいことは学会誌第4巻第1号に掲載の「投稿規定 最終改正 2000年9月9日」をご覧ください。
5. 問い合わせ先：ご不明な点がございましたら学会事務局にお問い合わせ下さい。

なお、査読が終了し、受理された論文から掲載しますので、早めに投稿されることをお勧めします。また、受理までに長期間を要する場合は、第7巻以降の掲載になることもありますので念のため申し添えます。

（編集委員長は盛昭子理事に代わり、後藤ひとみ理事になりました。よろしく願いたします。）

## 研究助成金申請者の募集

日本養護教諭教育学会では、会則第3条2に定める研究事業の一環として特色ある研究に対して助成を行っています。助成金は現在のところ些少ですが、「会員の研究意欲」を支援し、その研究成果を公表することによって「学会全体の研究活動の活性化」を図るものです。そこで、2002年度の研究助成金申請者の募集を下記の要領で行います。奮ってご応募下さい。

応募に際しては、以下の規定を周知のうえ、下記の「記載事項」に基づく研究助成金申請書を学会事務局宛に6月30日（消印有効）までに送付して下さい。

**【応募方法】**下記の記載事項によって申請書を作成し、封筒の表に「研究助成」と朱書して、学会事務局に郵送する。

**【応募資格】**応募者は2002年度学会費を納入している本学会の会員に限る。

**【研究期間と助成金】**研究期間は1年を原則とする。但し1年に限り延長することができる。なお、その場合は2年次にも改めて申請をして審査を受けるものとする。これまでの助成金は1件当たり5万円である。

**【研究成果の報告】**研究助成金を受けた研究は、その成果を学術集会及び会誌に発表しなければならない。期限は、原則として助成期間終了後1年以内とする。

**【研究課題の選考】**助成を行う研究課題は、理事会において審議し、総会で承認を受けて決定する。なお、理事会では、特色ある研究であること、研究目的が明確であることなどを基準として審査する。

### 「2002年度研究助成金申請書」への記載事項

1. 研究テーマ（新規・継続の別）

2. 研究期間（1年・2年の別）
3. 研究者  
 ◇代表者（氏名、所属機関名・住所・Tel/Fax、  
 自宅住所・Tel/Fax）  
 ◇共同研究者（氏名、所属機関名・住所・Tel  
 /Fax）
4. 研究計画  
 「研究の目的」「研究の方法」「研究の独自  
 性」「研究のスケジュール」など
- ◆なお、この申請書は原則としてワープロで作成  
 し、A4サイズ用紙2枚以内とする。

## 理事会等の報告

（2001年7月以降）

理事会等の活動は次のとおりです。

### ☆ 理事会

1. 2001年度第1回  
 日 時：2001年7月31日（火）9：00～12：30  
 場 所：かながわ県民サポートセンター（横浜）  
 出席者：理事7名（大谷、石原、楠本、後藤、下  
 村、村瀬、盛）第9回学術集会実行委員  
 長（竹田）  
 内 容：2000年度事業の総括、2001年度事業計  
 画、会計経過報告、2002年度事業計画、  
 2002年度予算案、研究助成金対象研究  
 の選定、第9回学術集会、第10回総会に  
 ついてほか
2. 2001年度第2回  
 日 時：2001年10月5日（金）18：00～20：00、  
 10月6日（土）11：00～12：00  
 場 所：湘南国際村センターほか  
 出席者：理事7名（大谷、石原、楠本、後藤、下  
 村、村瀬、盛）会計監査（山本）  
 内 容：第9回学術集会の準備状況、第10回総  
 会、2000年度会計決算、監査報告、研究  
 助成金対象研究の選定ほか
3. 2001年度第3回  
 日 時：2002年2月10日（日）9：30～15：00  
 場 所：かながわ県民サポートセンター（横浜）  
 出席者：理事5名（大谷、後藤、下村、村瀬、  
 盛）第9回学術集会実行委員長（竹田）  
 第10回学術集会実行委員長（小林）  
 内 容：2001年度の事業経過報告、2002年度の  
 事業計画、第10回学術集会の企画と運  
 営、日本学校保健学会の意見書とその取  
 り扱い、図書館による学会誌購入につい  
 て、英訳ワーキンググループについて、  
 賛助会員募集ほか

### ☆編集委員会

1. 2001年度第1回  
 日 時：2001年7月31日（火）13：00～16：00  
 場 所：かながわ県民サポートセンター（横浜）  
 出席者：編集委員9名（盛、大谷、石原、楠本、  
 後藤、下村、竹田、中桐、村瀬）  
 内 容：日本養護教諭教育学会誌第5巻第1号の  
 企画、2000年度編集委員会決算報告並  
 びに2001年度予算（案）、「ハーモニー」  
 26号の発行準備状況と27号の企画案ほ  
 か
2. 2001年度第2回  
 日 時：2001年10月5日（金）15：00～18：00  
 場 所：いせやま会館（横浜）  
 出席者：編集委員9名（盛、浅利、石原、大谷、  
 楠本、後藤、竹田、中桐、村瀬）  
 内 容：日本養護教諭教育学会誌第5巻第1号の  
 編集、2001年度編集委員会予算、「ハー  
 モニー」27号の企画案ほか
3. 2001年度第3回  
 日 時：2002年2月9日（土）14：00～20：00  
 場 所：いせやま会館（横浜）  
 出席者：編集委員10名（盛、浅利、石原、大谷、  
 楠本、後藤、下村、竹田、中桐、村瀬）  
 内 容：日本養護教諭教育学会誌第5巻第1号の  
 編集作業、学会誌発行までの予定、  
 「ハーモニー」28号企画案、ハーモニー掲  
 載に関する申し合わせ事項の確認ほか

# 新 入 会

2001年4月1日から2002年4月入会者、氏名  
と所属のみ掲載 (敬称略)

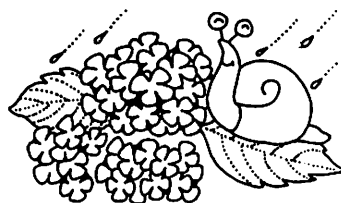
- 430 葛西 敦子 弘前大学教育学部教育保健講座  
431 平賀ゆかり 岩手県立大学看護学部  
432 津久井悦子 杉並区立第八小学校  
433 林 典子 磐田市立磐田北小学校  
434 阿部 伊織 和光市立第三中学校  
435 高田 幸子 北海道上磯高等学校  
436 辻 清子 茨城大学大学院  
437 三上 純子 青森市立筒井中学校  
438 坂下 小織 茨城大学大学院教育学研究科  
439 秋戸さゆり 七戸町立西野小中学校  
440 大髭 佳子 大阪市立旭東中学校  
441 角道 静枝 大阪市立城陽中学校  
442 川崎 良枝 横浜市立太田小学校  
443 藤田 祐子 愛知県立豊橋工業高等学校  
444 出井 梨枝 神戸市教育委員会総合教育センター  
445 北川 梅子 川崎市教育委員会健康教育課  
446 面澤 和子 弘前大学教育学部  
447 梅原マサ子 白河市立東北中学校  
448 福島さゆり 平塚市立中原中学校  
449 杉田真理子 茨城大学大学院  
450 山田 澄子 横須賀市立工業高校  
454 熊崎 智子 横浜市神奈川区保健所  
455 田代 佳子 岡山大学大学院教育学研究科  
456 梅崎貴美子 大阪府立天王寺高校  
457 小走 みほ 大阪府立加納高校  
458 元木千賀子 大阪府立八尾東高校  
459 三井 淳蔵 岐阜聖徳学園大学短期大学部  
460 矢野由紀子 愛知みずほ大学短期大学部  
462 大久保牧子 金ヶ崎小学校  
463 松山 長子 神奈川県立平塚商業高等学校  
464 棟方 百熊 鳴門教育大学

- 465 川尾小夜子 石川県立金沢向陽高等学校  
466 高橋 富枝 日本女子大学附属高等学校  
467 小島 早苗 横浜美術短期大学  
468 郡司 久子 神奈川県教育庁保健体育課  
469 河原 慶子 同志社香里中学高等学校  
470 岡本 啓子 奈良県立医科大学看護短期大学  
部  
471 大西喜代子 兵庫県立加古川高等学校  
472 小向 史子 茨城大学大学院  
473 木下 洋子 福井大学地域科学部附属中学校  
474 間脇 真澄 福井市立成和中学校  
475 佐藤 祐子 福島県立双葉高等学校  
476 山本 里美  
477 面川 幸子 棚倉町立高野小学校  
478 出原嘉代子 習志野市立第五中学校



☆会員名簿を10月に発行します。所属先の変更・連絡先の変更がありましたら7月中旬に事務局までご連絡下さい。(郵送またはFAX)

☆第10回学術集会の参加費等の振込み用紙を同封しました。多数のご参加をお待ちしております。



## 編集後記

3年目を迎えた理事会では、一部役割分担を変更し、学会の活動内容をさらに充実させていきたいと思っています。学会に対するご意見・ご要望は「会員の声」としてこのハーモニーにお寄せください。最後に、本号にご寄稿くださいました方々に感謝申し上げます。(石原・村瀬)